



# 楽々亭通信

第22号  
令和4年6月1日号

発行:NPO法人没イチの会・京都

## 5月の楽々亭を 開催いたしました



■「決して見捨てられな  
い仏さまだから・・・」

本願寺派布教使

安堂芳雅

この春から次女が小学  
校の先生になりました。

二年生の担任で、加減を  
知らない”常に全力”な  
子供たちの元気な様子  
を、あれこれと話してく  
れます。

その次女が帰るなり、  
「あー、疲れたー」とソフ  
アーに倒れ込みました。

どうやら、はじめての  
参観日だったとのこと。  
といっても、観るのは父  
兄ではありません。教育  
委員会の先生方が、新人  
教師の授業を参観するの  
です。

「心臓が飛び出るほど緊  
張した」とさすがにぐった  
りしている当人の横で、  
「いつも通りでいいのに、  
ピシッ!」としたシャツ  
なんか着ていくから緊張  
したんや」と妹は大笑い  
でした。

けれど、緊張したのは娘  
だけではなかったようで、  
いつもは、「せんせい、せ  
んせい」とワチャワチャ元  
気のよい子供たちが、その  
日はお行儀よく座ってい  
るので、とても授業がやり  
やすかったそうです。

つくづく「人間はたとえ  
幾つであつても、外からの  
目を気にするんだなあ」、  
と思いました。

私たちはひとりでも生き  
てゆくことができない生  
き物ですから、見捨てら

れ、独りぼっちになること  
を恐れるのでしよう。そし  
て、周りの目を気にして、  
失敗しないように、つまづ  
かないように、人に笑われ  
ないようにと身を固くし  
て生きています。

■阿弥陀さまはそのよう  
な生き方をしている私達  
ひとりひとりに、本当の安  
心とよるこびを与えずに  
はいられないと「どんなあ  
なたであつても、決して見  
捨てることがない”阿弥陀  
”という名前の仏さまに  
なられました。

■その仏さまは「南無阿弥陀  
仏」のお念仏となつて、  
今、ここに、ご一緒してく  
ださっています。

「そのままのあなたを、  
もうすでにひき受けてい  
る阿弥陀がここにいます  
よ」という名のりが、「南  
無阿弥陀仏」です。

誰がなんといおうと、私  
を見捨てることができな

い、あたたかな仏さまがご  
一緒の世界がある。

そこでは自分がどう評  
価されるかということは  
問題になりませんから、あ  
りのままの自分を受け入  
れることができます。

また、私たちは自分に背  
負いきれないことに出遇  
うと、自分で自分を認める  
ことができず、自分ですら  
自分を見捨ててしまいま  
す。けれど、自分ですら見  
捨ててしまうこの私を、  
「決して捨てない仏さま」  
がおられます。

■「南無阿弥陀仏」とお念  
仏申す中に、阿弥陀さまの  
あたたかなお心と確かな  
安心をいただくから、私た  
ちはありのままの自分を  
引き受けて、精一杯生きる  
ことができるのです。



## 楽々亭に参加してみても

### その2

私が宗教に触れたのは小学生の時京都の河原町三条にある、カトリック教会の日曜学校に通っていた時が初めてです。日曜学校に行くとき大きな飴をもらえるのが楽しみで通っていましたが、不純な動機ですね、でも当時は甘いものがあまりなく貧乏でもありましたので、外国の飴は私にとって魅力的なものでした。もちろんお祈りもしていましたよ、今でも少しは覚えています。それから高校の時お寺に下宿していましたので、そこで毎月仏教青年会が開催されていて、そこに誘われ仏教に触れたのが再度宗教に触れた二度目の体験です。

したらおいおいわかって来ます」などと私の納得できる答えは得られませんでした。「念仏ね、南無阿弥陀仏と云うのですか?」「そうです」「どうゆう意味か?」「いえ、南無とは呪文ですか?」「いえ、南無とは帰命する、任せると言うことで、阿弥陀はサンスクリット語で、無限、無量、計り知れないと言うことです。」「ですから、自分の全てを仏に託す、任せると念じるのが念仏なのですよ、分かりませんか?」私は「分かりません」と答えました。

その会は浄土宗の一派で光明会といい念仏修行をする結構ハードな念仏業をする会でした。当時の私は昼間アルバイトをして夜学校に行くという生活をしていましたので、忙しい毎日をお過ごしていました。しかしお寺に下宿している環境のせいか、仏教に少し興味を持ち、宗教とは?とか優しい仏教入門とかの本を読み漁ってみました。学校の図書館にそうした本がありましたので読んでみました。が、さっぱり分かりません。宗教を頭で考えようとしていた私は壁にぶつかりました。そうだ人間は理性と感情の動物だ、理性だけで宗教的に仏教を理解するのは無理だ、感情でも捕まえないと、それには念仏をしるとうことか? 仏教青年会の人達が分かったように念仏をしているのに少し反感を持っていましたが、ではなぜそうなのか自分も同じように念仏してみよう、してみなければ何も始まらない、それでも何も得られなければ仏教など諦めよう、念仏の会に参加する事にしました。正月の7日間の古知谷のお寺での念仏修行の会に参加しました。

皆さんの如何ですか? 宗教を信じますか? 信じませんか? こんな問いは意味がないですね。宗教という病気が治るとか、極楽に行けるとか、信じよさらば救われんとか、日頃の生活の中で宗教など考えた事がないという方が多いのでは、私もそんな気持ちで高校時代過ごしていました。これから私がなぜ先人たちが求めた仏教に興味を持って生きて来たかは、次回で・・・ 正月

の古知谷はとても寒かったことだけは覚えていています。

籠谷 弘



楽々亭の写真は12月のものです。

### 楽々亭第21回 6月の予定

6月13日(月)

西京区役所洛西支所会議室

午前10時~12時

5月に開催した場所です。

表玄関口から入って下さ

### 楽々亭通信

発行元: NPO法人 没イチの会・京都

住所: 京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701

TEL: 075-874-5320 FAX: 075-874-5328

MAIL: kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。